

僕は前日から期待で胸がいっぱいであまり眠れませんでした。何日も何週間も前から準備していたのですから。そして翌朝、仙台駅前に集まった時にはいよいよだなと感じわくわくが止まりませんでした。新幹線に乗り、東京に着いて、まず新日鐵住金のディレクトフォースがありました。新日鐵住金の玄関からはとても厳かなものを感じられました。そして、僕らは駅の改札のようなものを通り、上の方の階にある会議室に行きました。そこで僕らに話をしてくれたのは4人の社員の方々でした。その4人の方々の話を聞いて、将来の自分の具体的な理想像が見えてきたような気がしました。このような貴重な体験をさせていただき今回は本当に感謝しております。ありがとうございました。

次に、少し休憩をした後、今度は心臓手術の権威である順天堂大学天野篤教授のもとを訪問しました。最初は、天野教授はとても厳格な人なのではないかと思っていたのですが、実際のところはとても優しくな顔で貫禄を感じました。天野教授が話してくれた中で印象に残ったのは、「医者になる上で大切なこと」という質問に対して自分の役に立つ所を探せるかどうかということ、そしてその上でどういう医者になるのか身近に目標を立てながら努力しようということでした。これは医者になる以外にも考えられることだなあと感じました。また「普段通りの手術をするコツとは」という質問に対してたくさん経験することはもちろんだが「そういう風にした方がいいに決まっている」ことをちゃんと判断できるかどうか大事だということでした。この回答を受けて僕は少しドキッとしました。普段の自分は「そういう風にした方がいいに決まっている」ことをしっかりできているか…改めて言われてみると僕は自信がなくなってきました。後は「高校生のうちにしたほうがいいこととは」という質問に対して、英語とパソコンのタイピングという具体的な回答を頂きました。確かにこの二つはどの業界でも広く使えるとても大事なものだと感じました。その他には、本を繰り返し読むことも自分の世界を広げていく大切なことだと言われました。備えあれば憂いなしと言われるように、僕は少しずつ目標を立てて実行していけたらいいなと思いました。以上が僕の印象に残った話です。これらの話を聞いて、僕は医者という仕事の魅力をより深く知ることが出来たなと感じました。著名な教授の貴重な体験談や教訓を生で聞くことが出来て良かったです。天野教授には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。



やっとホテルに着いてその後すぐ、東大の二高卒業生との懇談会がありました。まず、最初に質問に答えてくれたのは理科一類4年生の一人暮らしの男性でした。何故東大を受験したのかという質問に対して、とりあえず一番上を目指そうと思った。東大に入ればやりたいことが見つかるだろうからと答えてくれました。僕は、この回答を聞いて、確かに東大に入ればやれることの幅は他の大学と段違いだなあと感じました。最初から自分には無理だと決めつけるのは間違っているのだろうなと僕はまた思いました。どの人にも僕は同じ質問をしたのですが、皆口揃えてとりあえず一番上を目指そうと思ったと答えてくれました。僕は大きな目標を立てればたとえ大学を変えたとしても余裕を持って受けられるのかなと思いました。中にはこんな人もいました、それは東大在学中に自分で起業したことを話してくれた女性でした。その人は日本酒の会社を立ち上げたことをPC片手にプレゼンテーションしてくれました。僕は在学中に起業するというのももちろんすごいと思うのですが、二高生時代、登校しないことが多く単位を計算して学校に来ていたというのもとても驚きました。このエピソードを聞

いて、僕はとても芯の強い女性だなあと感じました。高い志と意志を持てば夢は叶うのかも知れません。そして、懇談会は終わり、僕は翌日の東大のオープンキャンパスを楽しみに就寝しました。

翌朝、僕は東大のオープンキャンパスに行きました。僕はその何日か前に東北大のオープンキャンパスにも参加していたのですが、その違いを肌で感じる事が出来ました。赤門をくぐってまず、僕は医学部に行こうとしたのですが、今回は開いておらず非常に残念な気持ちになりました。仕方がないので、理学部の方に行ってみました。しかし、一口に理学部といっても、その中にはたくさんの種類の学科があります。数学科、物理学科、生物学科、地学科…僕はその中でも特に興味があった生物学科の展示にまず行ってみることにしました。最初に僕が目にしたのは以前テレビで特集をしていて興味があった線虫のパネル。その内容を見ていると、東大生とみられる人が更に詳しく丁寧に解説してくれました。しかも、その解説が分かりやすく、すんなりと耳に入ってくるのでそこから人に説明する能力の高さを感じられました。次に2階に行き、小柴ホールという所に向かいました。そこで、「純金製極細ワイヤー・ロッドの簡単レシピ」という化学科の講演をきいていたのですが、そちらはとても難しい内容で話を聞いても、あまり理解が出来ませんでした。そこから東大のレベルの高さを改めて感じました。次にフロアを移動して、化学科の展示を見に行きました。「ナノサイズ化した金属が示す新しい化学反応」という展示だったのですが、すごく不思議な現象が見られて非常に興味深かったです。東大に入れば、このような事もできるのだなあと段々惹かれていきました。その後も科学科の展示を見て回っていたらあっという間にお昼の時間になってしまいました。そこで僕は、本郷中央食堂へと向かいました。赤門ラーメン、キャンパス定食、秋刀魚の蒲焼など様々なメニューがありましたが、僕はお金がお土産を買った時にほぼ底をついてしまったので、迷った挙句、300円くらいの普通のカレーを食べました。じゃがいもがどろどろになってしまっただけのカレーのようになっており、あまり美味しくなかったです。食べ終わって次に、工学部に行く途中、あの有名な安田講堂を見かけました。安田講堂といえば1996年12月20日に国の登録有形文化財に登録された建築物ではありませんか。そのような建物を目の前にすると自分もここで学習したいという気持ちが次第に高まりました。工学部に着いたのですが何かをやっている様子はありません。どうやら工学部もやっていないようなので、また理学部に戻って今度は友達が見たいと言っていた「加速器で迫る素粒子と宇宙」という講演を見に行きました。講演を聞いていたら、講演を見たいと言っていた友達はいつの間にか眠りに落ちていました。僕も最初は面白いと思っていましたが、あまりにも話の次元がかけ離れていて、段々気が遠くなって行きました。次に、僕は天文学科の展示を見に行きました。天文学科の展示はスケールが大きいと感じられるものが多く、思わずうっとりとしてしまいました。そして、濃密な時間は過ぎていき、ついにこの研修は終わりをむかえてしまいました。この東大オープンキャンパスでは僕の興味を持てる学科をたくさん発見することができました。

帰りの新幹線で僕は、その2日間の余韻に静かに浸っていました。今回の非日常的な体験で僕は自分に対する意識が変化したような気がしました。この体験は一人では絶対に得られないものであったと強く思います。ダイレクトフォース、天野教授訪問、東大オープンキャンパスではなにより世界のトップレベルの大学というものに少しだけ触れる事が出来ました。東京の人々はもちろんのこと、この研修を共にした仲間、そして資金などを援助してくれた両親には感謝してもしきれません。この体験は、必ず将来への糧にしてみせます。